

ダイヤモンド電機グループの耀く仲間達へ

代表取締役社長CEO兼グループCEO
小野 有理

私がダイヤモンド電機社長に就任して、二度目の春を駆け抜けることになりました。瞬く間に咲き誇った櫻見上げる間も無く散りゆく忙しない今春、同じく駆けゆく移ろいさえ知らぬまま、もはや初夏を迎えています。

さて、今号が耀く仲間達の手元に届く頃には、2018年3月期決算、及び純粹持株会社への移行等、我が社の大きなニュースが既に耀く仲間達の耳に届いていることでしょう。既に朝礼等で届けている内容では有ると思いますが、此処でも少し触れておきます。

先ずは決算について、蘇生及び再生の過程をしながら、即ち、通常為れば人的リストラチャリングが実行される処を人件費には一切手を付けぬ処か、此之二年間も初年度から賞与を1ヶ月、次年度には0.5ヶ月積積み増し、今期には年間4ヶ月支給、加えて4年間に及んだ給与昇給凍結を解消しての過去最高益。売上高は残念乍ら為替に影響も含め微減為るも、高く飛び上がる為に膝を屈して備える一年としては、銀行様等は、及第点どころか、此之短期間での再生は驚くべきことと賞賛してくれていることは、耀く仲間達の奮闘を聊か誇りとする処です。

また、純粹持株会社への移行は、4年後に到達しているべき売上高1,000億円に見合った収益構造と速度を併せ持つ組織体制への移行であり、お客様にも我が社の耀く仲間達にも何ら不利益の無い変化進化であることは、お客様及び銀行様に快く御理解賜ったこと、そして耀く仲間達にも分かってもらったこと、嬉しい限りです。環境に適応する生物のみが生き残る、其之事を改めて認識し、我が社も変転する市場に合わせて変化し続ける一方で、変わらぬ原理原則で有る社は並びに経営理念及び経営計画書に則り、ものづくりに邁進し、耀く未来に向けて頑張っ参りましょう。

尚、上記に従い、我が社の魂である社は其之物に本来有する勁さを再び与えるべき時宜と想到し、書体変更の仕儀と相成りました。詳細は世界QC大会資料に記載の通りです。また、再生後も苦難に打ち克つ力を耀く仲間達に、と想到し、「健康に努めよう」から、月一回大阪本社にて新極真会空手五段の師範を御招きし、空手道場も開催しています。長年の経営指導の経験から駄目な企業の共通点は原点で有る経営理念等を疎かにすること、そう確信しています。私が刷新した経営理念と共に徹底的に実践し、耀く仲間達みんなの力で必ずや再建を果たしてみせましょう。